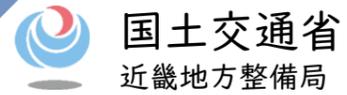


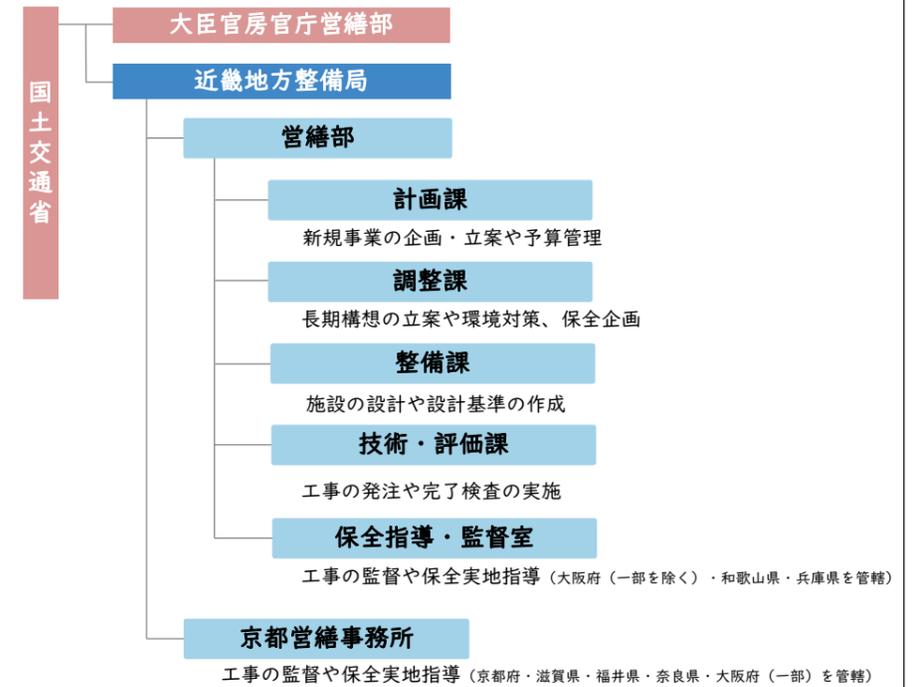
公共建築で、
近畿を支える。



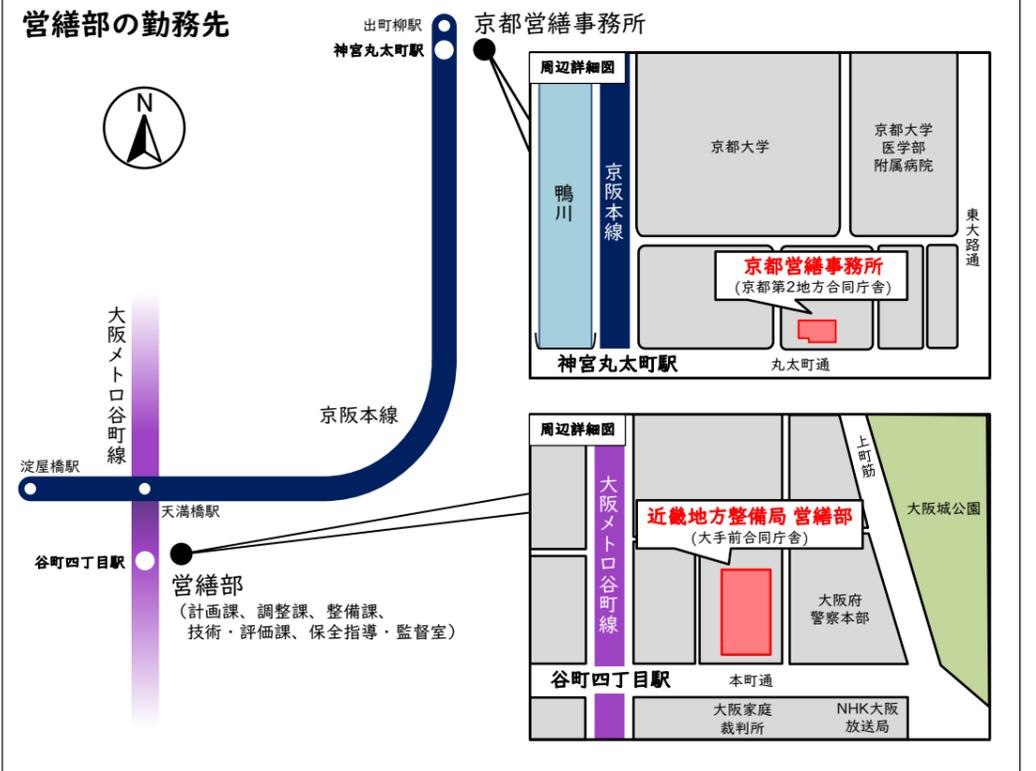
営繕部 採用案内

(建築、電気、機械)

営繕部の組織



営繕部の勤務先



国土交通省 近畿地方整備局 営繕部

住所：大阪府大阪市中央区大手前3-1-41
 大手前合同庁舎9階
 電話：06-6942-1141 (内線：5151)

皆さんは“営繕”という言葉を知っていますか。
普段の生活では、聞き慣れない言葉だと思います。

営繕を一言で表すと

「建物をつくる仕事」

です。

営繕部は、
相次ぐ災害や変わりゆくニーズに対応し、
また、近畿地方の伝統や文化を守り、
魅力ある地域となるよう、
公共建築のあり方を見つめ続けていきます。
私たちと一緒に、近畿の未来を支える営繕
を行いませんか。

近畿地方整備局 営繕部長

街中には、住宅、ビル、商業施設などたくさんの建物があります。

営繕部が手がける建物は？

営繕部は建物の中でも、合同庁舎や税務署、海上保安署、裁判所といった国の建物を手がけています。建物の用途や規模を考え、建物を利用する人の声を聞き、快適な空間を提供する建物をつくるのが営繕部の仕事です。

整備した建物の一例は
6ページを参照！

営繕部で活躍する技術者は？

営繕部では、「建築職」「電気職」「機械職」の担当者が、密接に連携しながらチームとなって建物をつくっています。「建築職」の役割は、周辺環境と調和する外観、災害に強い構造などをつくることです。「電気職」「機械職」の役割は、建物の中で、働きやすい執務環境（空調、照明、通信、水まわりなど）を考え、機能的な建物をつくることです。



営繕部の仕事

営繕部の仕事は、設計者、工事監理者や施工者といった建築の専門家と協力して、施設利用者からの要求を国の建物というカタチにかえる仕事です。
 また、建物を新しくつくることだけではなく、建物を適切に維持管理するための保全指導や、古くなった建物を長く活用するための改修により、建物の長寿命化を進めることも営繕部の大切な仕事です。
 営繕部では、企画、設計、施工、保全のプロセスを通して、50年先、100年先を見すえた建築プロジェクトに取り組んでいます。

災害時の仕事

地震、津波、風水害の災害時には、営繕部災害対策本部を設置して、国の建物の被災状況について情報を収集し、被災建物の災害復旧対策についての技術的な支援を行います。また、要請があった場合にはTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）として、被災地の支援にあたります。
 平成30年の大阪府北部地震では、高槻市、茨木市からの要請を受け、応急危険度判定士の資格を持つ営繕部の職員が、小中学校のブロック塀について、倒壊の危険性を調査しました。また、平成28年の熊本地震では、被災建物の応急危険度判定を行いました。



企画

設計

施工

保全

保全指導

改修企画

改修設計

改修施工



企画の仕事

国の建物をつくるため、営繕部の仕事は企画からはじまります。企画では、施設利用者からの要求をふまえ、計画建物の企画書を作成します。企画書には、建物に必要な部屋やその面積、室内の環境性能、建物の耐久性能、耐震性能、省エネルギー性能などをまとめます。また、設計、施工のための費用を算出します。



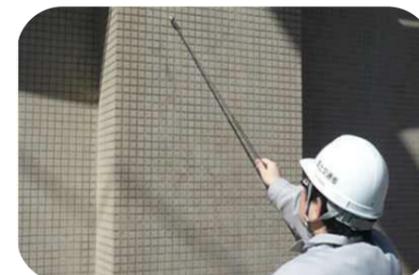
設計の仕事

設計では、現地調査や関係者との協議を行い、設計者が企画書をもとに設計図を作成します。営繕部は発注者として、設計図に施設利用者の要求が反映されているか、国の建物としての性能が満たされているかを確認し、設計者と協力してより良い設計図をつくり上げます。また、入札を行うために工事費を算出します。



施工の仕事

施工では、設計図をもとにさまざまな関係者と協力して実際に建物をつくりはじめます。設計者は設計の意図を関係者に伝え、工事監理者は工事が設計図どおりに実施されているかを確認し、施工者は工期内に建物を完成させます。営繕部は発注者として、良好な施工の品質を確保するために、確認や検査を行います。



保全の仕事

建物が完成した後は、保全の仕事に移ります。保全とは、建物が完成してから取り壊されるまでの間、建物の性能や機能を良好な状態に保ち続けることです。営繕部は、保全の取り組みとして、「保全指導」や「改修」を行います。



「保全指導」

建物の性能や機能を良好な状態に保ち続けるためには、建物を適切に維持管理する必要があります。営繕部は、定期的に講習会を開き、施設利用者には保全の指導をします。また、建物の実態調査を行い、その情報をデータベースに蓄積し、各施設の保全に役立ちます。



「改修」

建物の性能や機能が確保できなくなった際には改修により性能や機能の向上をはかります。改修には、老朽化した設備を更新する改修、劣化した屋根や外壁の防水性を高める改修、建物の耐震性を向上させる改修などがあります。営繕部は、企画、設計、施工のプロセスを通して、改修を行います。

営繕部が手がけた施設



神戸税関



動物検疫所神戸支所
苧藻動物検疫場



神戸地方裁判所・
神戸家庭裁判所明石支部



神戸地方合同庁舎



阿倍野公共職業安定所



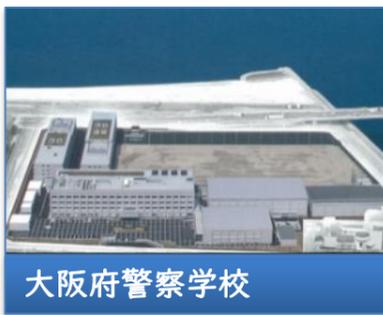
大阪府警察第一機動隊



堺地方合同庁舎



大阪中之島
合同庁舎



大阪府警察学校



和歌山地方合同庁舎



田辺海上保安部
串本海上保安署



京都御苑中立売休憩所



京都地方合同庁舎



京都迎賓館



福井地方検察庁
武生支部・区検察庁



国立京都国際会館



京都国立博物館



海上保安学校



敦賀海上保安部
福井海上保安署



彦根地方気象台



滋賀労働総合庁舎



大津びわこ合同庁舎



滋賀運輸支局



平城宮跡歴史公園
復原事業情報館



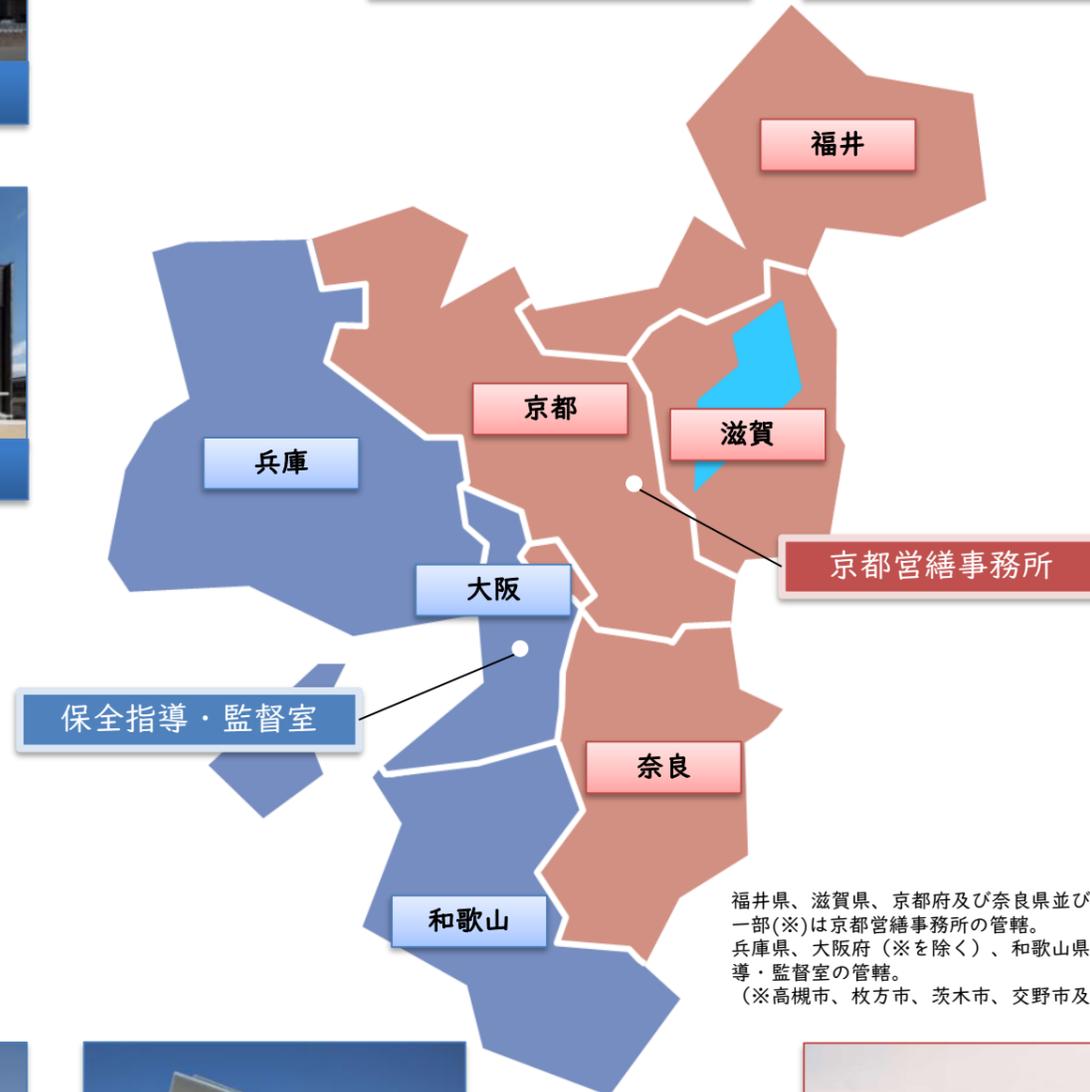
奈良第3地方合同庁舎



平城宮跡歴史公園
展示館



奈良地方気象台



福井県、滋賀県、京都府及び奈良県並びに大阪府の一部(※)は京都営繕事務所の管轄。
兵庫県、大阪府(※を除く)、和歌山県は保全指導・監督室の管轄。
(※高槻市、枚方市、茨木市、交野市及び島本町)



国立国会図書館関西館

建物には、電気設備と機械設備というシステムがあります。
営繕部には、電気職と機械職という仕事があります。

生産性向上 - i-Constructionの導入

国立国会図書館関西館書庫棟の事例

関西館書庫棟の工事では様々な最新のテクノロジーが活用されました。

例えばASP※。クラウドサービスを用い、図面、工事写真、工程表などを電子データで共有しています。共有しているファイルはタブレット端末を使えば現場内のどこでも閲覧できます。加えて、朝礼会場に大型LEDパネルを設置することでタブレット端末から直接各種図面を表示することもでき、分かりやすく、素早く情報を伝えることができます。UAV（通称ドローン）も活用し、毎日、工事全景写真を撮影し、工事の進捗確認や現場見学の説明に活用しました。



▲タブレット端末に表示した図面



▲大型LEDに図面を映した様子

▶本館と書庫棟
（右：書庫棟、左：本館）



断熱計画による室内環境の安定化

関西館書庫棟では、生産性向上の取組みの他にも様々な特徴的な取組みがあります。その一つが断熱計画です。外部環境と書庫との境にバッファゾーンを設け、室内環境を安定化させます。これにより、内部結露防止、空調負荷の軽減、建物の長寿命化を目指しています。



▲計画段階での断面図

この建物について

東京本館の所蔵資料増加に対応する大規模書庫として建設された国立国会図書館関西館は、後世に残す資料を所蔵する書庫棟の増築を3段階に分けて行うこととし、1つ目の書庫棟の工事が完了しました。関西館本館の機能を十分に発揮するために、機能面、環境面、景観面の視点からバランスの取れた高機能な書庫として計画しています。



▲国立国会図書館関西館本館の正面外観

所在地 京都府相楽郡精華町精華台8丁目1-3
敷地面積 82,659㎡

【本館】
建築面積 10,357㎡
延べ床面積 59,270㎡
構造 鉄筋鉄骨コンクリート造（一部鉄骨造）
階数 4階建（地下4階）

【書庫棟】
建築面積 4,585㎡
延べ床面積 25,003㎡
構造 鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）
階数 7階建（地下1階）

歴史 - 平城宮跡の復原整備

平城宮跡の復原整備の概要

奈良県にある平城宮跡歴史公園では、特別史跡である平城宮跡の歴史的価値・魅力向上に向けた様々な整備が行われています。2022年3月に「大極門（南門）」が完成し、現在は東側の整備が行われています。西側、回廊が順次整備される予定です。



▲平城宮跡に整備された大極門（南門）

大極門（南門）の復原整備

2017年より工事が始まった南門は、大極殿院の正面入口となる建造物です。復原整備では、伝統的な材料、工法を用いることを基本方針としています。

伝統的工法（木工事）

木工事では、伝統的な工法として、古代の大工道具を使用しています。右の写真のように手斧（ちょうな）や槍鉋（やりがんな）も用いて各部材の仕上げを行っています。



▲実際に使用している道具
◀槍鉋を用いて部材を仕上げる様子
▼麻の布目を再現した平瓦



伝統的工法（瓦製作）

木工事の他にも様々な特徴があります。瓦製作もその一つです。平瓦には、凹面に「布目」と呼ばれる古代の瓦に残っていた布の模様を意図的に再現しています。凸面には「縄目」と呼ばれる縄をまいた棒状の道具で粘土を叩き締めた痕跡を再現しています。



所在地 奈良県奈良市佐紀町地先
敷地面積 175,444㎡
建築面積 450㎡（素屋根 2,144㎡）
延べ床面積 196㎡
構造 木造 五間三戸二重門

電気設備

Electrical Building Equipment

電気職がカタチにしているのは「電力」「明るさ」「通信」など



▲受変電設備



▲照明設備



▲通信設備

機械設備

Mechanical Building Equipment

機械職がカタチにしているのは「空気環境」「水環境」など



▲空調設備



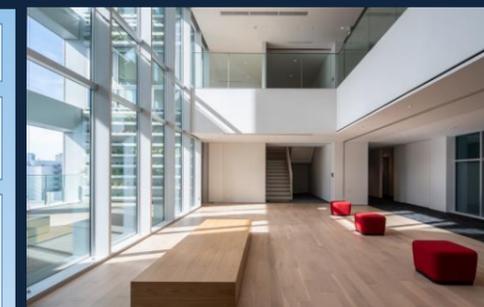
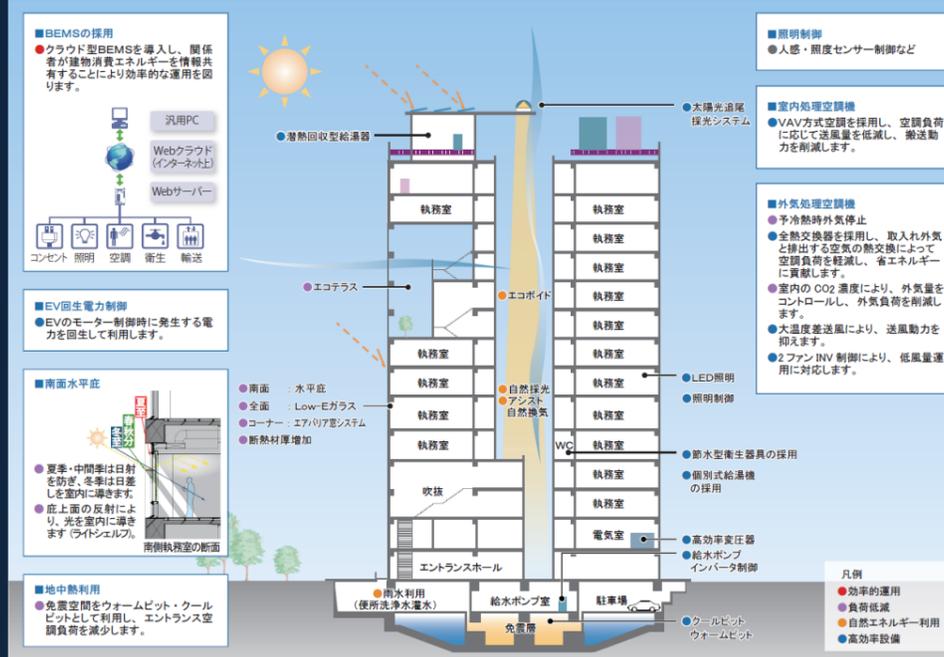
▲給排水設備



▲消火設備

施設利用者が快適に過ごせる環境や
災害時における応急対策活動を支える機能などを検討し
「カタチ」にしているのが、営繕部の「電気職」「機械職」の仕事です。

大阪第6地方合同庁舎の取組事例



▲9階 ウェルネスラウンジ



▲1階 エントランスホール

グリーン社会の実現に向け
環境負荷低減に資する技術を積極的に取り入れ
脱炭素化を推進するよう

「カタチ」にしているのも、営繕部の「電気職」「機械職」の仕事です。



公共建築分野も
共にリードしましょう!

藤本 享史

営繕部 調整課 課長
昭和61年入省 建築職

昭和61年 営繕部 建築課
平成13年 営繕部 技術評価課 保全係長(迎賓館 専任)
平成15年 営繕部 建築課 設計係長
平成17年 内閣府 迎賓館京都事務所 設備係長
令和 2年 四国地方整備局 営繕部 整備課 課長補佐

企画

調整

仕事内容

営繕部で一番川上側の立ち位置にあり、将来を見据えた総合的な事業計画や所管施設の保全指導、環境対策の企画・立案などを行っています。とくに、近年の社会情勢の変化において、公共建築の分野でも重要な課題となっている「ストックの有効活用」や「インフラの長寿命化」「環境への配慮」について、重点的に取り組んでいます。

仕事の魅力・やりがい

公共建築の全ての整備フェーズに関われることが、営繕部ならではの魅力です。各部署を経験していく中で、計画担当でも設計や現場のことを意識できるような、プロジェクト全体を貫く視野を磨けます。また、営繕部組織が蓄えてきた知識をもとに、自ら公共建築分野で頼られる存在として活躍できることが、営繕部職員一人一人のやりがいと感じます。

仕事で大切にしていること

国の建物の整備には多くの関係者が存在しますが、中でも私たちはプロジェクトを推進する立場として、彼らが考えていることの本質を見抜く能力が必要とされます。そのため、相手と通じ合うコミュニケーションの取り方を工夫すること、また、物事を客観的に捉えられるバランス感覚を持つことを心がけています。

心に残るプロジェクト

京都迎賓館の整備にあたり、入省16年目にプロジェクトマネージャーを担当しました。整備後は内閣府に Outreach して迎賓館の維持管理にも携わり、一連に関わったプロジェクトとして、とても思い出があります。類のない施設であるため苦労したことも多く、その分やり遂げた時の達成感やプロジェクトチームの連帯感は、今なお心に深く残っています。



若い人たちの力で活気ある職場
になる事を期待しています。

石澤 佳也

営繕部 整備課 電気設計審査係長
平成10年入省 電気職

平成10年 営繕部 設備課 電気設計係
平成25年 営繕部 整備課 電気設計審査係主任
平成28年 営繕部 保全指導・監督室 専門員
平成31年 営繕部 整備課 電気設計審査係長

設計

建築設備

仕事内容

建築設備のうち、電気設備設計を担当しています。携わる業務は幅広く、施設に必要な電気設備について打合せを行い利用者のニーズを把握することから、それらを整備するにあたって安全面・品質などで問題のない設計となっているかの技術的な確認や審査、工事を発注するために必要な工事金額の算出、などを行っています。

仕事の魅力・やりがい

電気設備の仕事は裏方かもしれませんが、私は人が建物で活動するために備わるあらゆるシステムのコーディネーターだと思っています。その立場から、一般的な庁舎に限らず研究施設や博物館、国際会議場など、国ならではの特別な建物に関われること、またそういった建物の裏側を覗けることに、大きな魅力とやりがいを感じています。

仕事で大切にしていること

様々なコミュニケーションツールが利用できるようになったこの時代でも、仕事では顔を合わせたコミュニケーションがやはり大切だと実感しています。私は打合せが長いと言われるかもしれませんが(笑)、寄り道もしながらいろいろと話してみると、思いもよらない会話を糸口に、隠れていたニーズを引き出せることがよくあるのです。

若手に期待すること

設備職は、入省して仕事を覚えながら同時に建築設備の専門知識を蓄えていきます。電気職や機械職の若手の皆さんは、どうしても即戦力になるのが難しい場面もありますが、個性派ぞろいの設備職の先輩が多岐にサポートしますので、失敗を恐れず自分の頭で考えて積極的に行動してください。必ず成長していく力となります。



企画

計画

若手も
活躍できる場所。

前野 安季

営繕部 計画課 調査係
平成29年入省 建築職

平成29年 営繕部 整備課 建築設計審査係
平成31年 企画部 企画課 事業調整係
(近畿圏広域地方計画推進室 併任)

仕事内容

建物の新築や改修についての企画立案と予算管理を担当しています。営繕部ではプロジェクトごとに計画担当、建築・電気設備・機械設備の設計担当、工事であれば現場を担当する監督職員とがひとつのチームになって、事業を進めます。私は計画担当として、その中でも事業全体の調整役を担っています。

仕事の魅力・やりがい

計画の仕事の魅力は、事業の小さな芽を自分の手で育て、実となって結ばれるまで携われるところです。事業化の過程における事前調整はとても重要で、異なる立場の方とのコミュニケーションにはいつも気を配っています。時には進行が足踏みすることもあります、少しずつでもプロジェクトが前に進んでいるのを実感すると、やりがいを強く感じます。

企画部での経験

人事交流で入省後3・4年目に配属された企画部では、大阪・関西万博の関連事業計画の立ち上げに関わりました。霞が関への対応や連携する地方公共団体との調整など、若手でも責任ある仕事を任せてもらえる機会が多く、調整力が身につく仕事の視野も大きく広がりました。

私から見た営繕部

部全体で若手を育成する手厚い環境とそれを支える心強い体制があります。1年目の整備課で、OJTの一環として庁舎の新築事業の基本計画にとりくみ、若手でチームを組んで最後までまとめあげた経験は大きいです。その他にも、近畿管内で施工中の工事現場での見学会が開催されたり、上司や先輩方が若手の学びと成長の機会をたくさん与えてくれます。



他では経験できない
やりがいのある仕事です!

野上 摂

営繕部 整備課 積算係長
平成17年入省 建築職

平成17年 営繕部 建築課 設計審査係/積算係
平成22年 営繕部 調整課 環境係
平成24年 営繕部 計画課 計画係
平成29年 淀川河川事務所 工務第二課 施設第一係長

設計

積算

仕事内容

「積算」という、建設工事にかかる費用を算出する仕事をしています。営繕部では、企画から設計・施工・保全のサイクルで建物に携わる仕事がありますが、その中でも設計から施工に至るタイミングで、入札・契約に必要な工事費を、設計図面をもとに、基準などのルールにのって積算をしています。

仕事の魅力・やりがい

積算はお金に関することなので、非常に重要で責任のある仕事です。だからこそ、工事が適切な金額で契約できた時には一安心するとともに、事業を次の段階に進められることに嬉しい気持ちを感じます。その一方、実務においてはある程度自分でペース配分ができるので、仕事と家庭のバランスを取りやすい点も魅力です。

私から見た営繕部

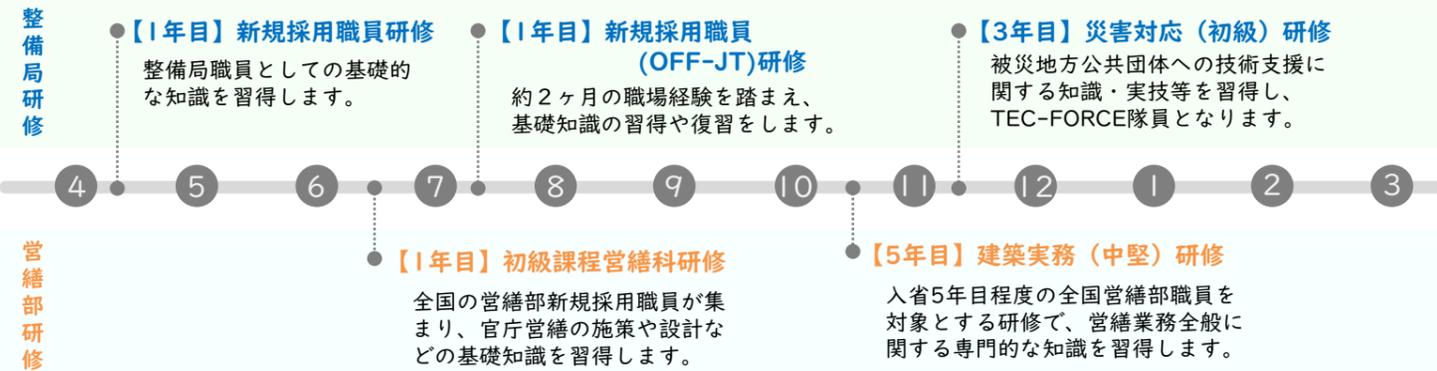
アットホームで職員同士の仲が良く、困ったときはお互いに助け合いながら仕事に取り組んでいける、働きやすい職場です。土木の事務所へ異動したり、育児休暇をとって職場を離れる期間もありましたが、営繕部はまさに自分のホームといえる場所で、戻ることに不安はありませんでした。

若手に期待すること

積算はもちろんですが、私たち営繕部は一つ一つの仕事に法令や基準など根拠を持っています。若手の皆さんはまず、その理解を進めていくことが仕事をする上での自信、そして相手から得られる信頼に繋がっていると思っています。また、悩みも抱え込まず、積極的にコミュニケーションをとりながら楽しく仕事をしてもらいたいです。

1年目から上司と一緒に担当案件を受け持ち、**実際の事業を通して仕事の流れを学んでいきます。**
また、整備局全体の研修や、営繕部の研修・勉強会に参加し、基礎的な知識を習得します。

若手職員の例



営繕部内勉強会(通年) ▶

各課が主催する勉強会が行われています。自分の所属課以外の業務に関する知識も学ぶことができます。



現場見学会(通年) ▶

実際の現場を見ながら、設計図の読み方や施工のポイントを学習します。複数回現場に行くことで工事工程を踏まえて学ぶことができます。



Q&A

Q. 勤務地は? 転勤はあるの?

A. 営繕部職員の主な勤務地は大阪市・京都市となります。(詳しくは裏面参照)
なお、土木事務所の整備のため、淀川河川事務所や兵庫国道事務所の勤務となることもあります。希望すれば他の地方整備局等に異動することも可能です。

Q. 勤務時間は? 残業はあるの?

A. 勤務時間は、営繕部は、9:15~18:00
京都営繕事務所は、8:30~17:15です。(フレックス制度などもあります)
業務の都合上、残業をしなければならない場合もありますが、その場合には超過勤務手当が支給されます。

Q. 休みは取れるの?

A. 長期的なプロジェクトが多いので、計画的に作業を行うことで休暇を取りやすいです。

Q. 外(オフィス以外)に出る機会は多いの?

A. 配属される部署にもよりますが、企画・設計・施工・保全の各段階で、外部との打合せはもちろんのこと、工事現場の確認や施設の現地調査を行っています。そのほか現場見学会や勉強会などで工事現場を見る機会があります。

Q. 営繕の仕事はやはり建築職がメインですか?

A. 営繕部には建築以外にも電気や機械といった専門分野の職員が多数在籍しており、重要な役割を担っています。

Q. 学生生活で学んだことは生かされますか?

A. 建物はいわば全ての工学の結晶のようなものですので、建築に限らずこれまで専攻された分野の知識を生かすことができます。もちろん、新たな知識も必要となりますが、仕事を通して先輩や上司が教えてくれます。

Q. 建築士などの受験資格は得られますか?

A. 例えば、一級建築士の場合、営繕部の設計・施工部門などでの経験は、実務経験に該当します。営繕部の若手職員も積極的に試験を受けています。

Q. 採用までの流れは?

A. まずは、人事院が実施する国家公務員一般職試験(大卒程度試験、高卒者試験、社会人試験)に合格することが必要となります。そして、近畿地方整備局が実施する個別業務説明会や官庁訪問へご参加ください(詳しくは人事院ホームページをご確認ください)。

利用者のための建物を追求できる職場です

吉岡 絵里子

京都営繕事務所 調査・保全係長
令和2年入省 建築職

令和2年 営繕部 保全指導・監督室 専門員

施工

保全

仕事内容

施工と保全を担当しています。現場では、発注者として、良好な施工の品質を確保するための確認や検査を行い、設計図をもとに工事監理者や施工者と協力して工事を進めています。保全に関する業務では、完成後の建物の性能を良好に保ち続けられるよう、施設管理者へ定期的に講習会を開くなど必要な指導を行っています。

仕事の魅力・やりがい

現場管理にはつねに重責が伴いますが、担当する工事が完成を迎えると、施設の利用環境の向上に微力ながらも貢献できたのだと、達成感を得られます。また、計画から設計、施工、保全という建物のライフサイクルについて、段階毎に様々な観点から学び、営繕のキャリアステップを踏めることに魅力を感じます。

私から見た営繕部

選考採用試験(社会人経験者・係長級)で営繕部に採用されました。国の様々な建物を扱い、設計事務所や地方公務員の経験を活かすことができる職場です。採用された時期は、ちょうどテレワークや時差出勤という新しい働き方が浸透し始めた頃で、時代の変化に適應する組織の柔軟さや、職員の迅速な対応を目の当たりにしています。

目標にしていること

周りのベテランの先輩方です。仕事で困っていることを相談をすると、どんなに忙しくても手を止めて丁寧に向き合ってくれます。また、先輩方がトラブルをいとも簡単に解決する姿を見ると、培った経験の豊かさを感じます。私も、何事にも真摯に向き合う姿勢を大切に、経験を重ねていきたいと思っています。

設計

建築設備

まずは説明会にきて
営繕部について
詳しく知ってください!

小村 祐也

営繕部 整備課 機械設計審査係
令和3年入省 機械職

仕事内容

機械設計審査係として、主に設計の業務を担当しています。業務では、建物を利用する各各庁の職員や設計事務所の方との打合せ、機械設備の図面チェックなどを行っています。1年目の現在は、建築に携わる技術者、また公務員として必要な知識を身に付けられるよう、業務や研修を通じて日々勉強しています。

営繕部を目指したきっかけ

大学では機械工学を専攻していて、建築とは知識の分野にいました。近畿地方整備局の業務説明会に参加したことをきっかけに、営繕部が多岐にわたる魅力的な建物を整備していることを知り、未知の領域でしたがその仕事内容に強く興味を引かれて、自分も携わりたい!と建築設備の世界に飛び込みました。

私から見た営繕部

自分が設計や工事に携わった建物を未来に残すことのできる営繕部の仕事に、とてもやりがいを感じています。その中で私の思う営繕部の魅力は、自分の力で成長していける環境が尊重されていることです。私は、機械設備の知識だけではなく建築と電気設備についても理解を深めながら、より良い公共建築を整備していけることを目指しています。

採用から1年をふりかえって

建築設備の知識がゼロの状態からスタートしたため、最初は専門用語を聞き取ることさえ苦労しました。上司や先輩方がこまめに話しかけてくれたり、気軽に質問に答えてくれるので、コミュニケーション力と理解力が少しずつ身につけてきました。最近は設計事務所との打合せの場でも積極的に発言でき、1年前の自分より成長を感じることが嬉しいです。